

## 第2 秋田市の概況

### 1 人口および世帯（市全体・高齢者）

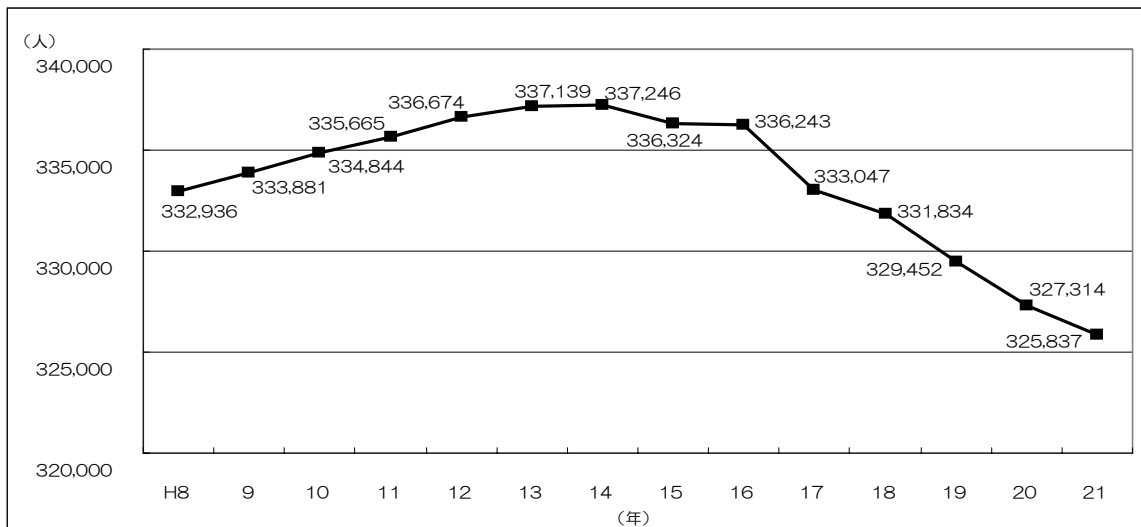
#### (1) 人口

##### ア 人口の推移と将来予測

本市の人口は、平成14年をピークに減少に転じ、平成21年10月1日現在で325,837人となっています。【グラフ1】

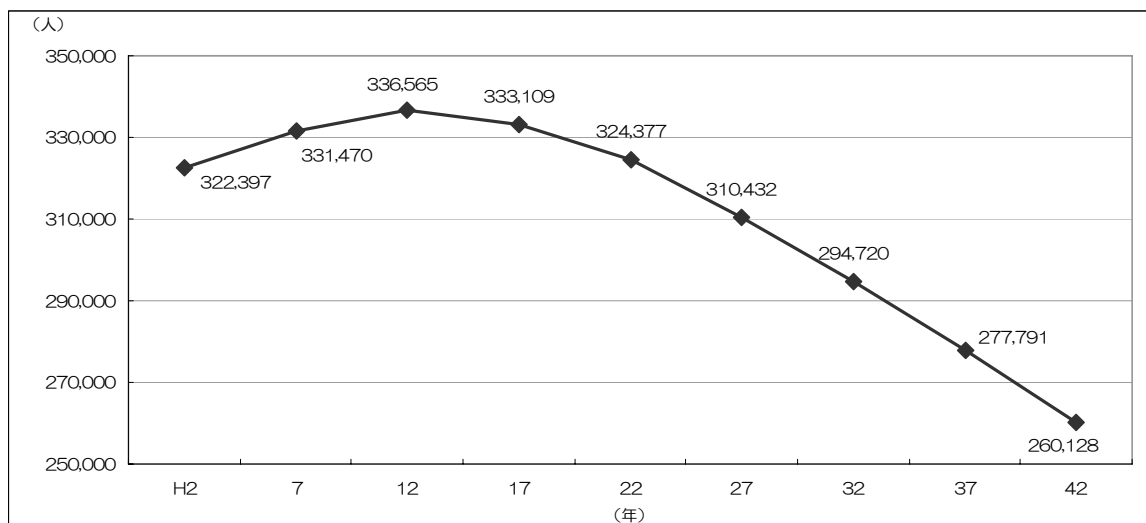
国勢調査からの推計では、10年後の平成32年には約30万人、20年後の平成42年には27万人を下回ると予測されています。【グラフ2】

【グラフ1 人口の推移】



資料：秋田市情報統計課  
 ※ 平成16年以前は、旧河辺町、旧雄和町を含む  
 (住民基本台帳の数値を使用)

【グラフ2 人口の推移と将来予測】



資料：国勢調査、秋田市情報統計課  
 ※ 平成16年以前は、旧河辺町、旧雄和町を含む  
 (H17国勢調査の数値を基に推計)

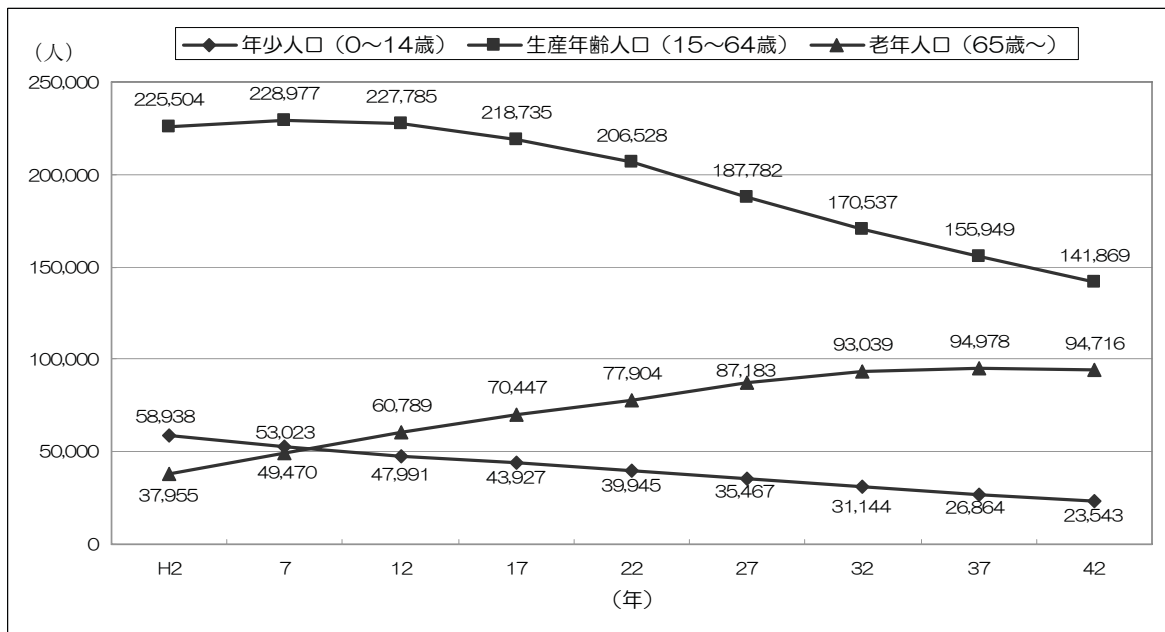
## 第2 秋田市の概況

### イ 年齢別人口の推移と将来予測

本市の年齢別人口の推移をみると、年少人口、生産年齢人口ともに減少傾向にあり、老年人口は増加傾向にあります。【グラフ3】

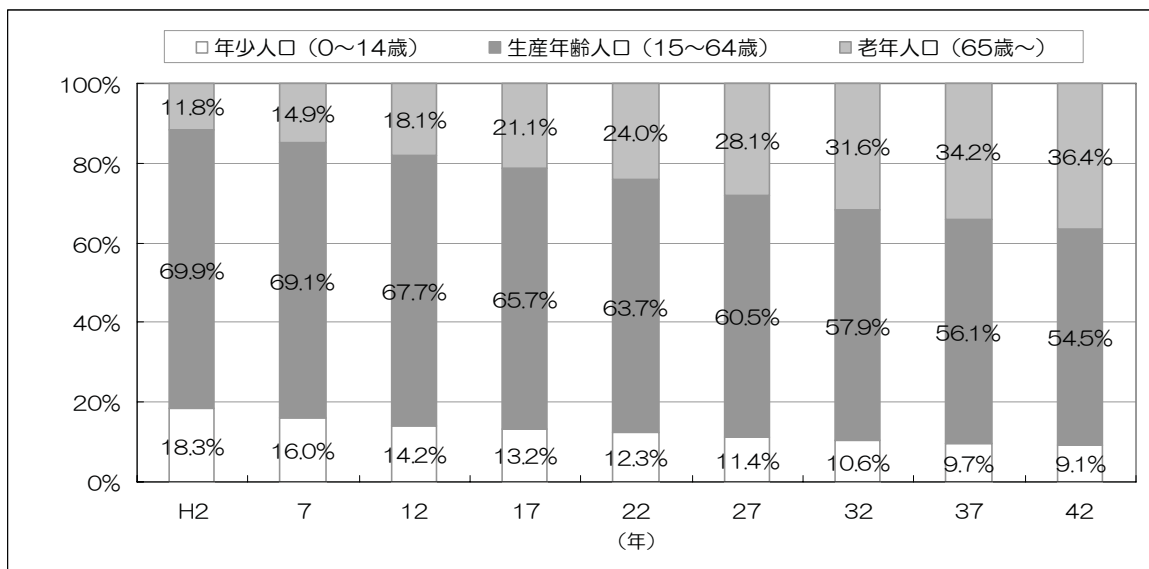
国勢調査からの推計では、65歳以上の老年人口は、10年後の平成32年には30%を超え、平成37年には34.2%になり市民の約3人に1人が高齢者になります。【グラフ4】

【グラフ3 年齢別人口の推移と将来予測】



資料：国勢調査、秋田市情報統計課  
 ※平成16年以前は、旧河辺町、旧雄和町を含む

【グラフ4 年齢別人口の構成比の推移と将来予測】



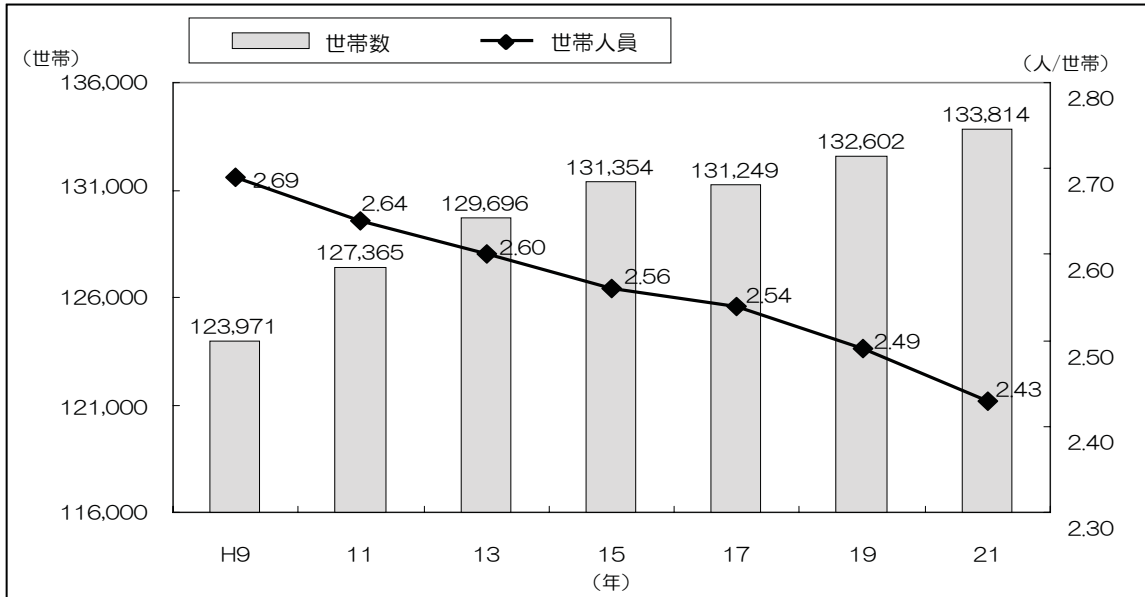
資料：国勢調査、秋田市情報統計課  
 ※平成16年以前は、旧河辺町、旧雄和町を含む

(2) 世帯

平成21年までの本市の世帯数と世帯人員の推移をみると、世帯数は緩やかに増加していますが、1世帯あたりの人員は減少傾向にあります。【グラフ5】

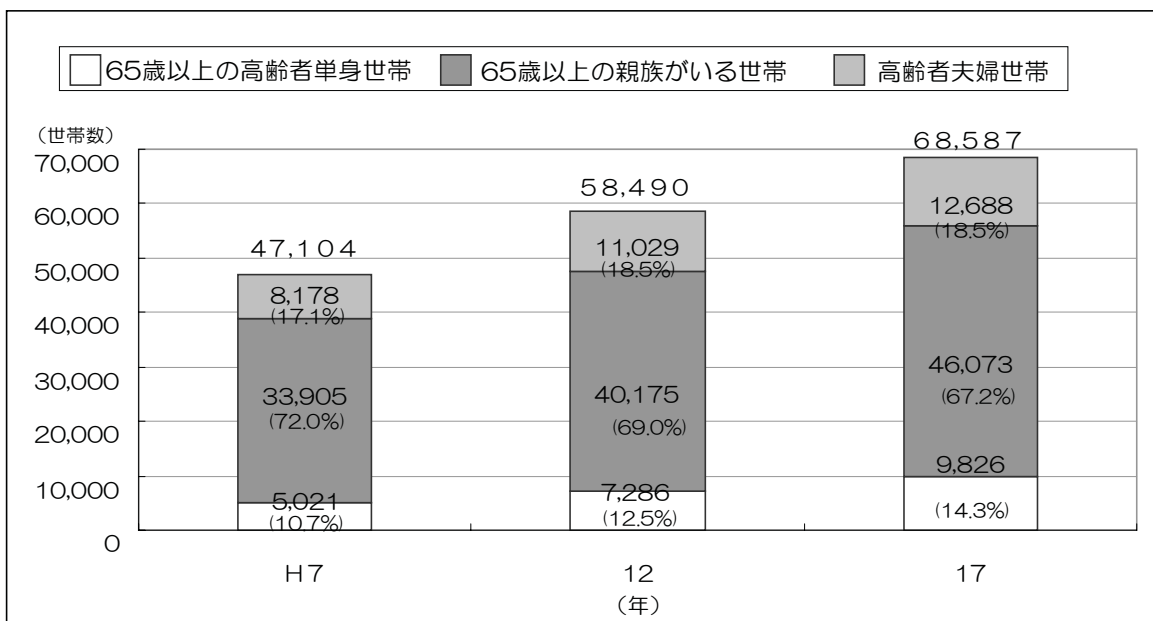
高齢者が該当する世帯の推移では、単身、家族世帯いずれも増加傾向にあり、伸び率でみると65歳以上の単身世帯が高くなってきています。【グラフ6】

【グラフ5 世帯数と世帯人員の推移】



資料：秋田市情報統計課  
※平成16年以前は、旧河辺町、旧雄和町を含む

【グラフ6 高齢者が該当する世帯の推移】



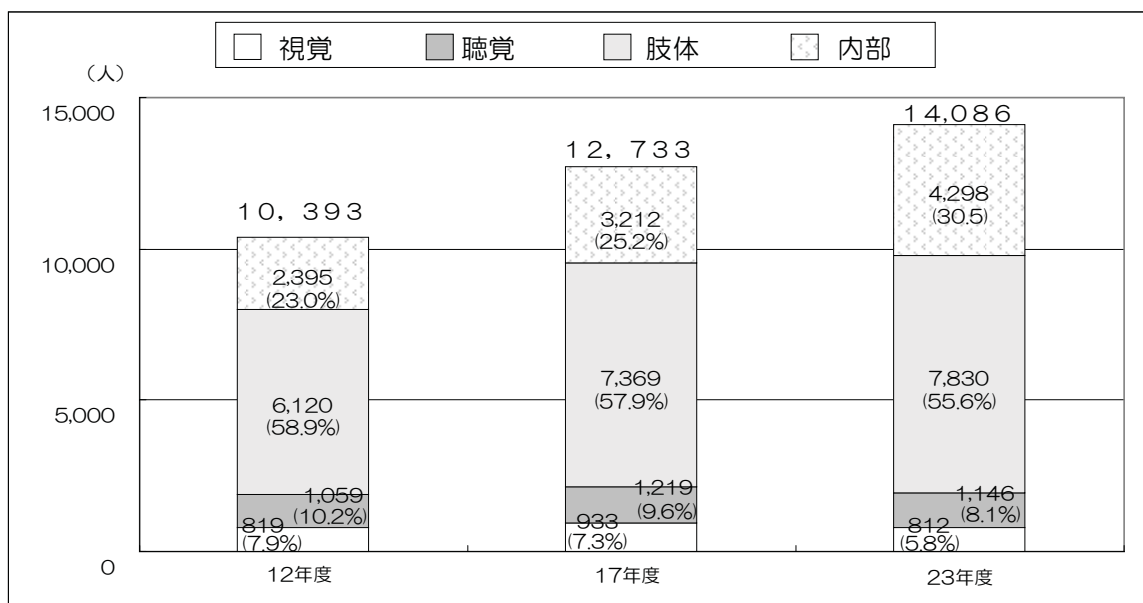
資料：国勢調査

## 第2 秋田市の概況

### 2 障がい者

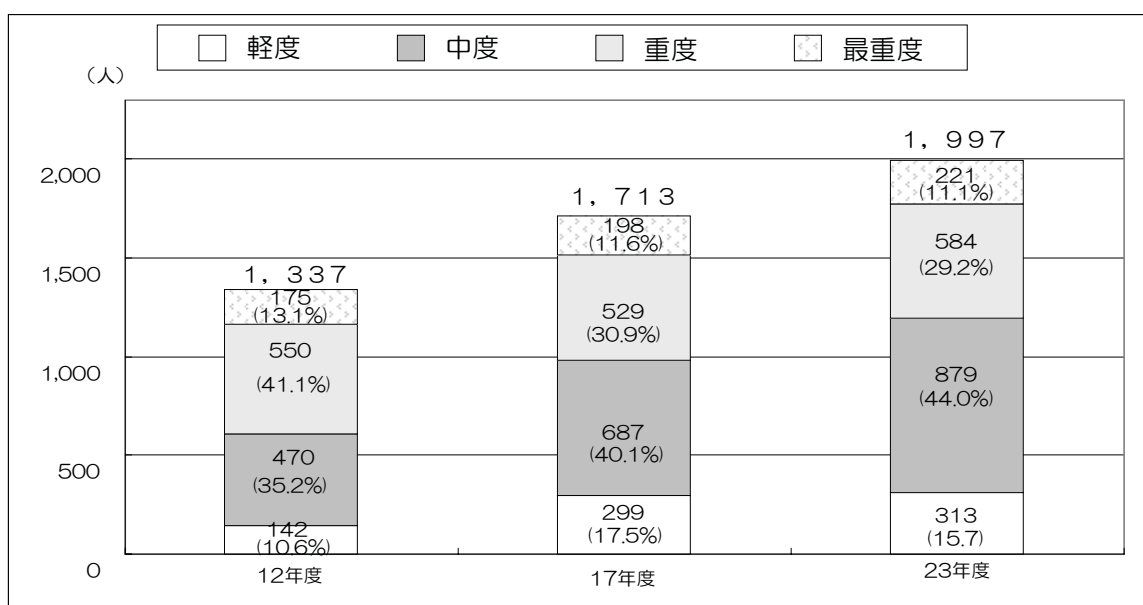
障害者手帳所持者は、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者のいずれも増加傾向にあります。【グラフ7、8、9】

【グラフ7 身体障がい者数の推移】



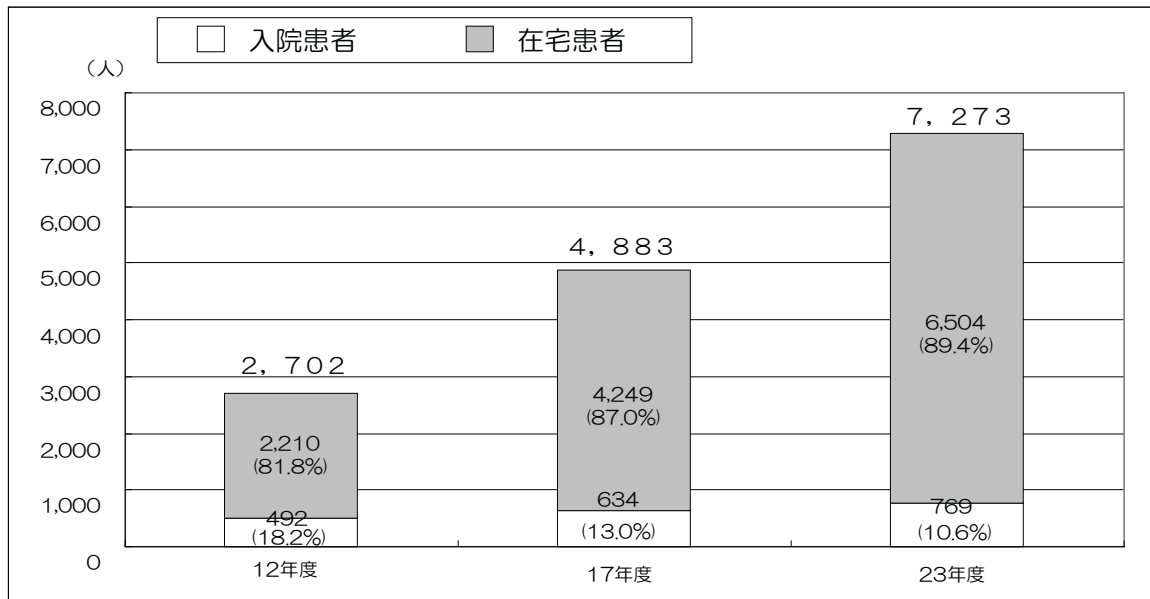
資料：秋田市障がい福祉課  
※平成23年度は身体障害者手帳所持者数をもとに推計

【グラフ8 知的障がい者数の推移】



資料：秋田市障がい福祉課  
※平成23年度は知的障がい者数をもとに推計

【グラフ9 精神障がい者数の推移】



資料：秋田市障がい福祉課

※平成23年度は平成17年3月末現在の通院医療費公費負担申請数、医療保護入院数等をもとに推計

### 3 公共交通の状況

#### (1) 公共交通の体系

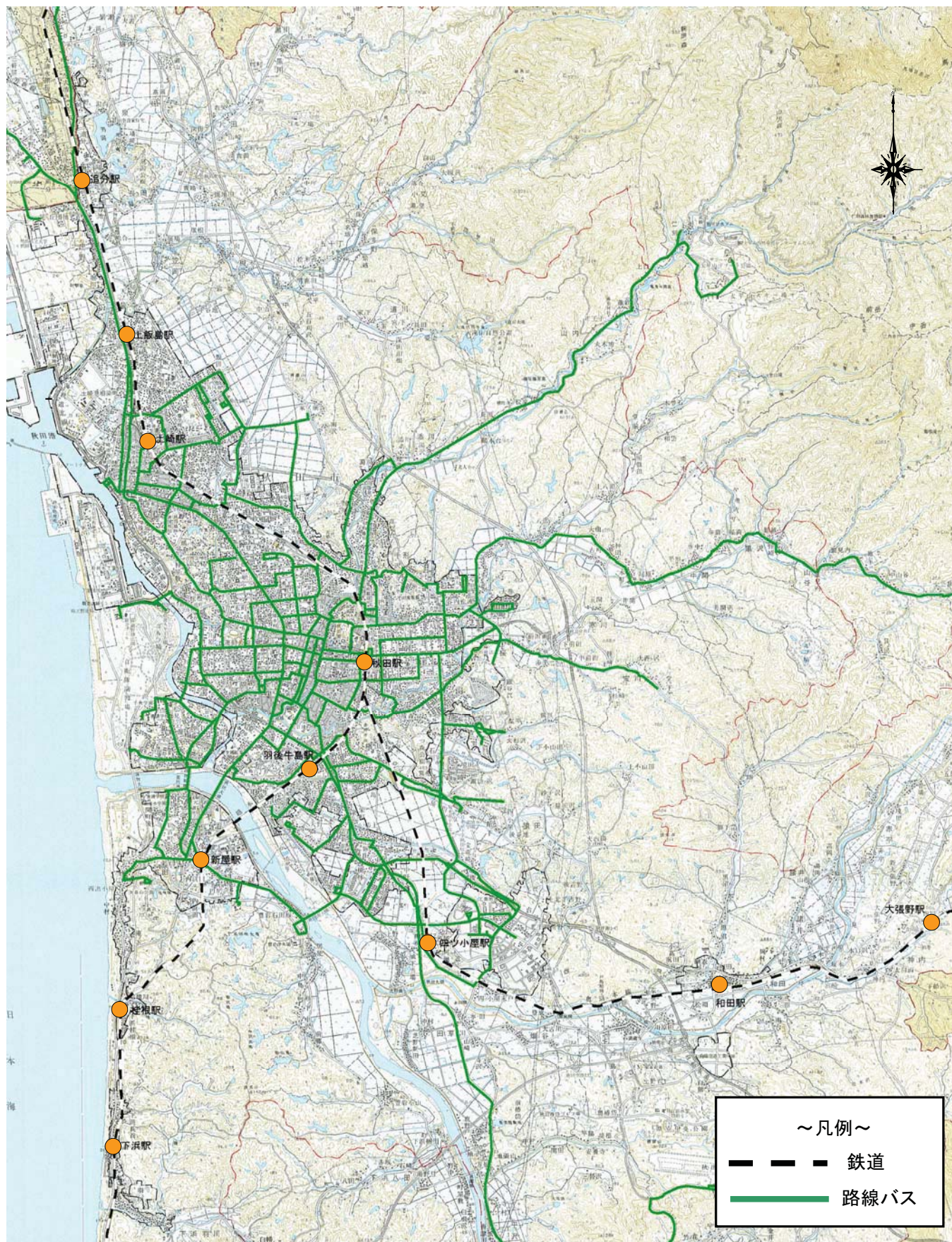
本市の公共交通は、奥羽本線、羽越本線および男鹿線等の鉄道が、1日あたり約150便運行され、市内外の交通を分担しています。

路線バス(秋田中央交通株式会社)は、50路線119系統で、1日あたりの平均では約1,723便(平成22年4月現在)が運行され、秋田駅を中心に放射状のネットワークを形成しています。【図1-1】

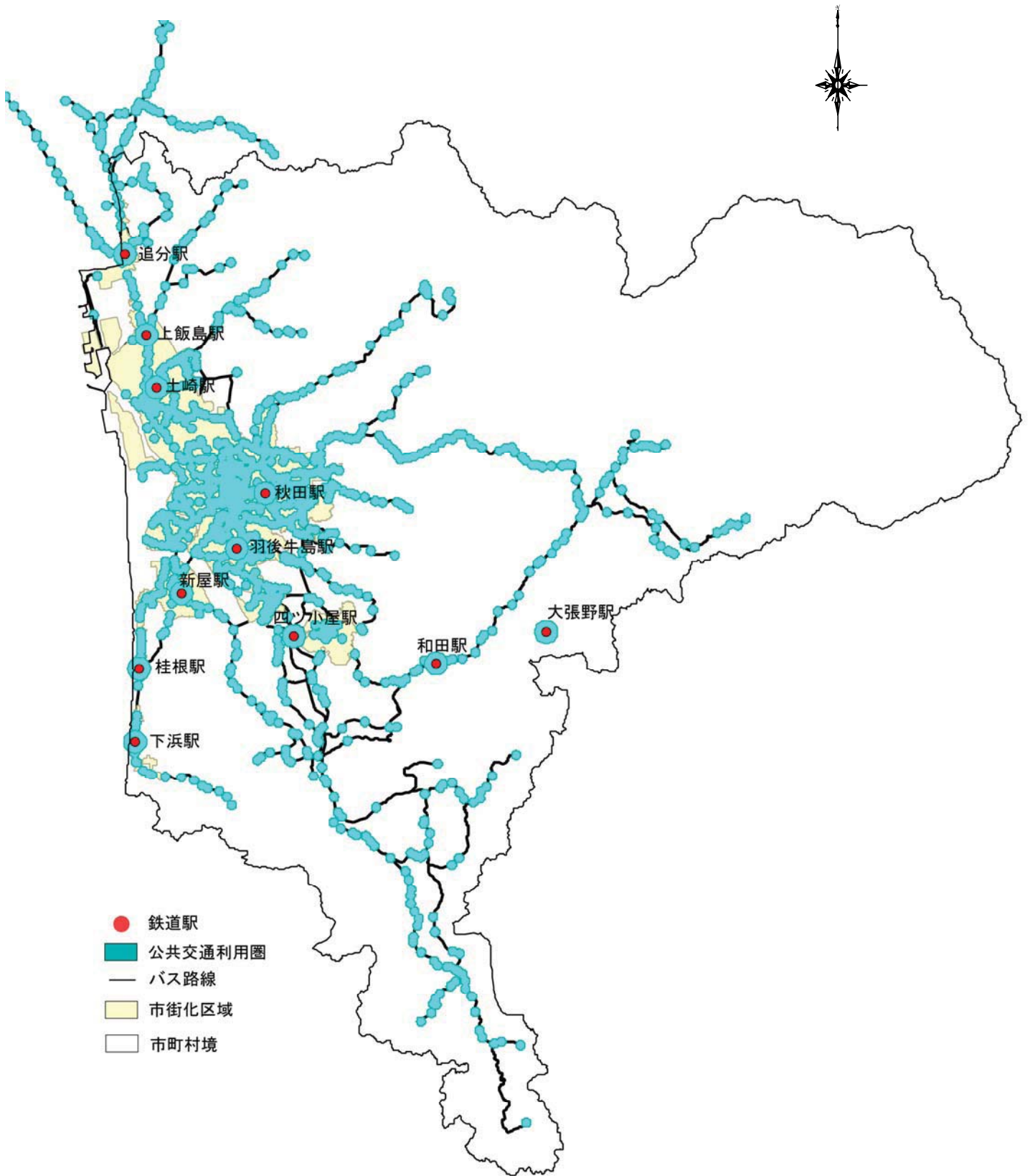
鉄道駅から500m、バス停から200mの範囲に居住する人口は、全人口の64%を超え、市民の2/3は公共交通を利用できる環境にあります。【図1-2】

## 第2 秋田市の概況

【図1-1 公共交通機関の路線】



【図1-2 公共交通利便地域】



※バス路線は平成18年4月現在  
資料：秋田市総合交通戦略

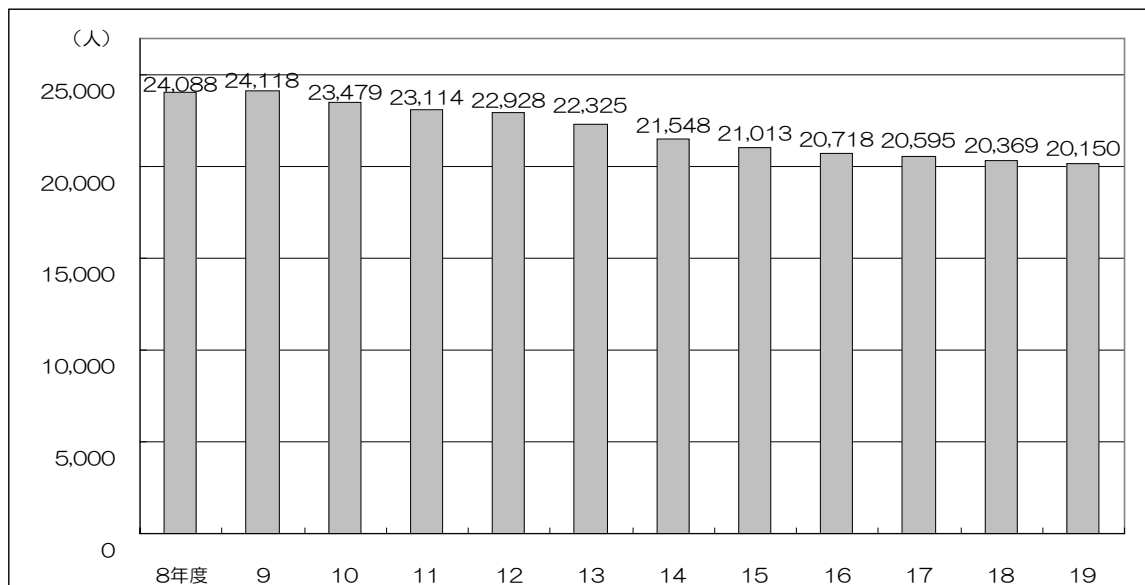
## 第2 秋田市の概況

### (2) 鉄道の利用状況

全鉄道駅の1日の乗降客人員は、年々減少しており、平成10年から平成19年までの10年間で約14%減少しています。【グラフ10】

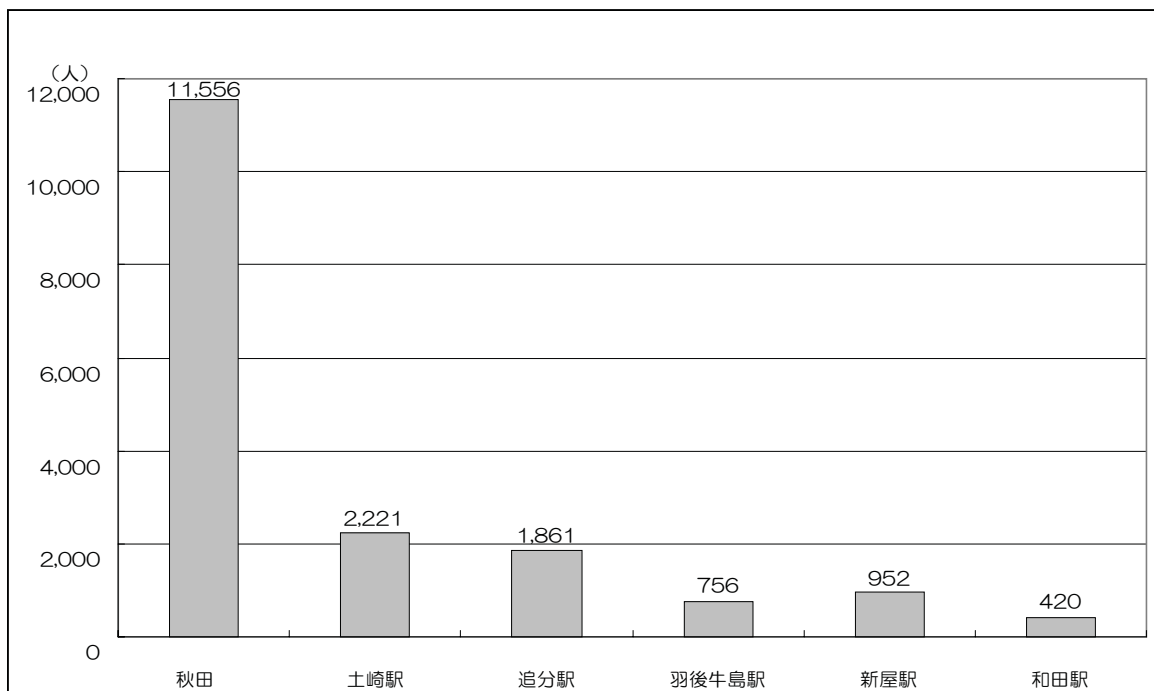
鉄道駅別の1日の乗降客人員では、各路線が集中する秋田駅が最も多く、次いで土崎駅、追分駅、新屋駅の順になっています。【グラフ11】

【グラフ10 全鉄道駅の1日の乗車人員】



資料：JR東日本旅客鉄道株式会社

【グラフ11 鉄道駅別の1日の乗車人員（平成21年度）】



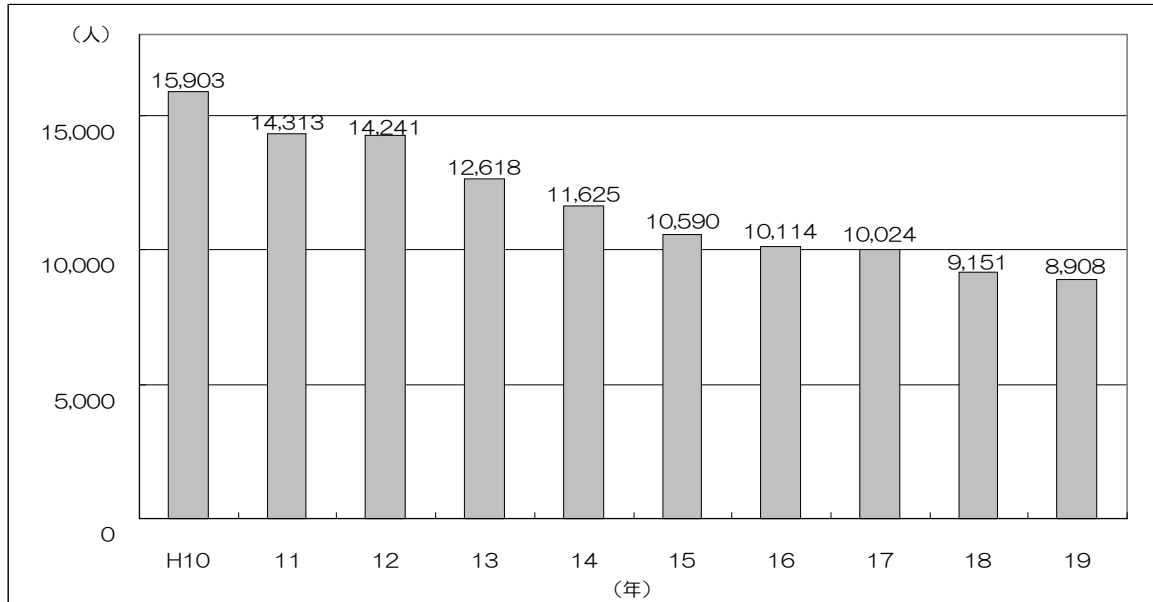
資料：JR東日本旅客鉄道株式会社  
※数値は概数



(3) バスの利用状況

路線バスの輸送人員は、減少の一途をたどり、平成10年から19年までの10年間で約44%減少しています。【グラフ12】

【グラフ12 バスの輸送人員】



資料：秋田市交通局、秋田中央交通株式会社

4 主な生活関連施設の分布状況

生活関連施設を地域別でみると、施設数では中央地域が最も多く、以下、北部地域、東部地域が続きます。特に中央地域は、医療、教育・文化の各分野にわたり、高次のサービスを提供する施設が立地しています。

種類別では、福祉施設等のうち、高齢者を対象とした施設が、市街地全域にわたり立地しています。一方、障がい者を対象とした施設は、ほとんどが人口集中地区(※9)とその縁辺部に立地し、東部地域、西部地域、北部地域に比較的多く立地しています。

医療施設等のうち、病床数20床以上の病院は、中央地域に最も多く、次いで北部地域に多く立地しています。なお、西部地域、河辺地域、雄和地域には総合病院等の大規模な医療施設はありません。

商業施設(大規模小売店舗)や金融機関は、人口集中地区のほか秋田新都心地区、和田地区、妙法地区などに立地し、その多くは鉄道駅周辺、バス路線沿いに立地しています。また、郵便局は市街地全域にくまなく立地しています。【図2】

(※9)人口集中地区：国勢調査において設定される統計上の地区で、人口密度が4,000人/k㎡以上の基本単位区が互いに隣接して人口5,000人以上となる地区。

## 第2 秋田市の概況

---



高次なサービスを提供できる施設が立地（中央地域）



バス路線沿いに商業施設(大規模小売店舗)が立地

【図2 主な生活関連施設の分布状況】

